

ゴビンダ医師のハンスト闘争(28)

7. ハンスト:開始から終了まで

- (1)ジウムラでハンスト開始
- (2)体調悪化

(3)ゴビンダ医師支持の拡大

ゴビンダ・KC 医師がジウムラに入りハンストを開始すると、KC 支持がジウムラやカトマンズで一気に高まり、そしてそれが全国へと拡大していった。以下、カトマンズ強制移送までの推移概要(日時のズレが多少あるかもしれない)。

6月30日:ジウムラでハンスト開始。

7月1日:ジウムラでKC支持署名開始。警官多数動員。

7月3日:KAHS, 救急を除きスト。ムグとカリコットでも医療スト。(*13)

7月6日:バラトプル病院で10時から15分間、KC支持医師スト。

7月7日:ネパール医学協会(NMA: Nepal Medical Association), 政府に対しKCの改革要求への回答が72時間以内になければ、医療機関スト実施を通告。7~8日、マイティガルでKC支持デモ。(*29)

7月9日:NMAの回答要求に対し、政府が話し合いを提案するも、KC側拒否。

7月10日:ジウムラで女性のKC支持デモ。

7月11日:NMA, 全国の各病院前で毎朝10時~11時、KC連帯スト開始。

7月13日:①KC支持諸組織, 共同声明発表。ネパール教授ユニオン, 弁護士会, 医師会, 看護師会, 医療職員会, カトマンズ大学教員組合など(*34)。②TU教育病院医師ら, マイティガルでKC支持デモ。

7月15日:ジウムラでKC支持拡大, 立ち入り禁止区域にも入り警官隊と衝突。KCカトマンズ移送へり着陸すれば破壊, ジウムラで交渉できないのなら郡役所閉鎖などと主張。(*36, 40)

7月16日:①リパブリカ社説「無視の17日間」——[要旨]KC支持は、マイティガルKC支持集会など、国民運動となりつつある。オリ首相は見ているだけ。共産党はKCが kongress 党と手を組んでいると非難。が、KCは kongress 党政権時も改革闘争をしていたのであり、この非難は的外れ。「KC医師の要求の核心は、誰でも受けられる保健医療と医学教育であり、われわれはこれを求めるKC医師を支持する。ネパールの公衆保健医療は乱雑貧困きわまりないのに、貧しい人々はそれに依存せざるをえない。ところが、政治家たちは、ちょっとしたケガや病気でも外国へ行き大金を払い私立病院で治療を受ける。KC医師は、この現状を変えようとしている。ジウムラのような遠隔地でも彼が支持されているのは、そのためだ。ジウムラでは、女性も老人も街頭に出てKCを支持し、政府に対し彼の要求を受け入れるよう訴えている。彼らはKCを救い主と見ているのだ。彼らは政府に怒っている。もしKC医師に何かが起これば、オリ首相の政府は、国内でも国際的にも信用を完全に失うことになる。オリ首相がもし自分の評判を大切にすなら——われわれはそう信じているが——、彼はKC医師の抗議を誠実に受け止め、彼の諸要求に応じる方法を探るべきだ。手遅れになると、取り返しがつかないことになる。」(*37)

7月18日：NMA, 総決起決定。19日に全国の公私立病院, 医院, 診療所を救急を除き閉鎖。医療関係者は19日, マイティガルに集結せよ。責任はすべて, KCの要求に応じない政府にある。

7月19日：①リパブリカ社説「首相, 手法を改めよ」——[要旨]「K.P.シャルマ・オリ首相は, 民主的に選ばれた政府の長たるに相応しくないほどの傲慢さをみせている。彼は, 人民や彼の党に対し, 政府のあらゆる行為を——善悪にかかわらず——是認することを求め, 批判に対しては不寛容になりつつある。彼は, 彼に誤った情報を伝えたり, 彼の聞きたいことだけを彼に告げる『イエスマン』を身辺に集めているようだ。」(*41)

②NMA 声明「政府が KC 医師の要求を無視すれば, 医療機関の救急も閉鎖する。結果の全責任は政府にある。」(*42)

③ロチャン・カルキ NMA 書記長「KC 医師の命を救い, 彼の要求に応えるよう首相, 保健大臣, 教育大臣に訴えてきた。が, 政府はわれわれの訴えを聞かなかった。だから, われわれとしては, 人々の治療をやめたくはないのだが, 仕方なく外来診療の拒否を行うのだ。」(*42)

④NMA, 医師ら医療関係者約 1000 人参加し, マイティガル⇒ニューバネスワル抗議デモ行進。MR・シュレスタ NMA 会長「これは KC 医師の訴えへの支持を示す象徴的な抗議活動だ。特定の政党を支持したり政府自体への反対をしたりしているのではない。」KC の訴えを聞き入れよ, さもなければ医療サービス無期限休止。(*40,45)

⑤全国で医師も参加し KC 支持デモ拡大。カルナリ州, 救急を除き全医療機関閉鎖。



■NMA ログ / [Save Prof. Dr. Govinda KC](#) (FB)



भारतपुर अस्पताल अगाडि - डा. गोविन्दा.के.सी. 15th Hunger Strike

■[Dr. Govinda K.C. 15th Hunger Strike](#)(YouTube)

*26 DB BUDHA, “KC supporters gather in Jumla,” Republica, July 2, 2018

*27 DB BUDHA, “We can’t treat Dr KC at present site: Doctors,” Republica, July 4, 2018

*28 “Bharatpur Hospital docs stage protest in support of Dr KC,” Kathmandu Post, Jul 6,

2018

- *29“Protests in Kathmandu in support of Dr KC,” Republica, July 8, 2018
- *30“NMA gives govt 72 hrs to fulfill Dr KC’s demands,” Republica, July 9, 2018
- *31“Dr KC rejects PM’s proposal for one-on-one by phone,” Republica, July 10, 2018
- *32“Dr KC: ‘New opposition’ for govt, ‘hero’ to locals,” Republica, July 11, 2018
- *33“Docs to stage hour-long rally at medical institutions,” Republica, July 11, 2018
- *34“In a symbolic protest, Dr KC supporters gift Marsi rice to PM Oli,” Republica, July 13, 2018
- *35“Residential doctors demonstrate in support of Dr KC,” Republica, July 13, 2018
- *36 Devendra Basnet/DB Budha, “Jumla locals urge govt to come for talks with Dr KC,” Republica, July 15, 2018
- *37“Editorial: 17 days of neglect,” Republica, July 16, 2018
- *38 Devendra Basnet/DB Budha, “Docs prepare to place Dr KC on ventilator,” Republica, July 16, 2018
- *39 DB Budha, “Struggle Committee demands safety for Dr KC’s life,” Republic, July 16, 2018
- *40“Docs to shut down services except for emergency on Thursday across country,” Republica, July 18, 2018
- *41“Editorial: Prime Minister, mend your ways,” Republica, July 19, 2018
- *42“Health workers boycotting OPDs from today,” Republica, July 19, 2018
- *43“Dr KC says govt is indifferent,” Republica, July 19, 2018
- *44“After forced airlift to capital, Dr KC continues fast-unto-death,” Republica, July 20, 2018
- *45“NMA protests against govt apathy to Dr KC’s demands,” Republica, July 20, 2018

谷川昌幸(C)

2019/03/24 at 09:57

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#)

Tagged with [ハリスト](#), [Govinda KC](#), [医学教育](#)

ゴビンダ医師のハリスト闘争(27)

7. ハリスト:開始から終了まで

(1)ジウムラでハリスト開始

(2)体調悪化

ゴビンダ医師は、6月30日午後3時頃から、郡スポーツ開発委員会ホールでハンストに入った。報道では、酸素吸入は受けてもグルコース(ブドウ糖)は拒否したとされているから、このハンストはおそらく水と食塩のみの最も厳しいハンストであったとみてよいであろう。

ゴビンダ医師の体調は、スポーツ開発委ホールの劣悪な環境もあって、ハンストに入って間もなく、急速に悪化していった。医学的なことは全くの専門外だが、報道によると経過はおおよそ次のようだったらしい。

ハンスト3日目の7月2日には、早くも手足、頭部、胸部の痛みを訴え、尿量は200ml/日に激減。

[KAHS](#)(カルナリ健康科学アカデミー)医師は、危険な状態に陥りつつあると警告した。

7月4日になると、ゴビンダ医師の体調はさらに悪化、危なくなったので、KAHSの医師らが午後5時半ころ、彼をKAHSの救急病棟に移した。以後、7月19日午後のカトマンズ強制移送まで、彼のハンストはKAHSで続けられることになる。以下、体調悪化の状況――

7月7日:手足、胸部、頭部に痛み。血圧低下、白血球減少。静脈内注入液、投与。

7月8日:酸素吸入開始。

7月11日:白血球減少、血糖値低下、血中マグネシウム低下。筋肉けいれん、嘔吐感。ほとんど話せない。

7月14日:せき。心拍異常。

7月16日:心拍異常。喉の異常、手のはれ。立てない。体重65kgから56kgに減少。

7月19日:常時酸素吸入開始。胸の痛み、せき。PVCs(心室性期外収縮)で心停止の恐れ。

⇒⇒午後、カトマンズへ強制ヘリ移送



■[Solidarity for Prof. Govinda KC](#) FB2018年7月17日/18日

*9 "Dr KC continues hunger strike in Jumla despite deteriorating health," The Himalayan Times, July 02, 2018

*10 "DAO Jumla orders KIHS for best treatment as Dr Govinda KC's health deteriorates," Republica, July 2, 2018

*11 "Dr KC taken to emergency unit after his health deteriorates," Kathmandu Post, Jul 4,

2018

*12 DB BUDHA, "We can't treat Dr KC at present site: Doctors," Republica, July 4, 2018

*13 "Dr Govinda KC rushed into ICU as his condition deteriorates," Republica, July 4,

2018

*14 "Dr KC admitted to emergency ward," Republica, July 5, 2018

*15 "Dr KC's health 'worsens'," Kathmandu Post, Jul 8, 2018

*16 "Dr Govinda KC shifted to special care unit," HIMALAYAN, July 8, 2018

*17 "Dr Govinda KC shifted to special care unit," HIMALAYAN, July 08, 2018

*18 Devendra Basnet/DB Budha, "Dr KC refuses medication," Republica, July 10, 2018

*19 "AHRC urges govt to save Dr Govinda KC's life," HIMALAYAN, July 11, 2018

*20 "KAHS prepares ventilator and defibrillator for Dr Govinda KC," HIMALAYAN, July 15,

2018

*21 "Govt forms talks panel led by Education Secy Baral," Republica, July 16, 2018

*22 "Dr KC appeals for medical attention," Republica, July 17, 2018

*23 "Dr KC diagnosed with hypocalcemia," Republica, July 17, 2018

*24 "Dr KC says govt is indifferent," Republica, July 19, 2018

*25 "Dr Govinda KC diagnosed with PVCs; govt sends helicopter to bring him back,"

HIMALAYAN, July 19, 2018

谷川昌幸(C)

2019/03/20 at 16:38

カテゴリー: [健康](#), [教育](#), [民主主義](#)

Tagged with [ハリスト](#), [Govinda KC](#), [Jumla](#), [医療制度](#), [医学教育](#)

早春の六甲山麓植物園

快晴に誘われ、近くの「[北山緑化植物園](#)」に行ってきた。六甲山中腹。サクラ、ツツジはまだだが、高山性や平地早咲きの花々は、早や満開、驚いた。まるで夏山のような。

この植物園は小規模だが、入場無料で、しかも管理がよく行き届いている。直接的経済効果はさほどないであろうが、文化的に西宮市を大いに豊かにしていることに疑問の余地はあるまい。



* 自生？

谷川昌幸(C)

2019/03/19 at 10:22

カテゴリー: [自然](#), [文化](#)

Tagged with [高山植物](#), [六甲山](#), [植物園](#)

ゴビンダ医師のハンスト闘争(26)

7. ハンスト:開始から終了まで

(1)ジュムラでハンスト開始

ゴビンダ・KC医師は2018年6月29日、空路ジュムラに入った。医療過疎地カルナリ州のジュムラで「決死のハンスト」を敢行し、「医学教育令2017年」の継承発展たる「医学教育法」の制定など保健医療制度の抜本的改革を訴え、オリ政府に圧力をかけ、それを実現させるためであった。

翌6月30日、ゴビンダ医師は、ハンストを予定していたKAHS(カルナリ健康科学アカデミー)教育病院に向かったが、途中で警察に阻止された。仕方なく予定を変えジュムラ郡役所に向かったが、今度は役所入口付近で拘束され、警察署に連行されてしまった。

ジュムラ郡当局は、ゴビンダ医師ハンスト情報に基づき、あらかじめKAHS、郡役所、郡警察署それぞれの200m以内での抗議活動を禁止していた。警察は、この禁止命令に違反したとしてゴビンダ医師を拘束したのである。

警察署に留置されたゴビンダ医師は、午後3時ころ、そこでハンスト開始を宣言した。これに対し、KC支持派が激しく抗議、困った警察は彼を「郡スポーツ開発委員会ホール」に移した。そこは電気すらなく、ジメジメしており、鳩の糞だらけ。特に日没後は暗くて寒い過酷な環境。それでもゴビンダ医師は、ひるむことなく、床(コンクリート?)にマットを敷き、そこで敢然とハンストに入ったのである。15回目のハンスト。



■ジュムラ(jumlanepal.blogspot.com)／KAHS 付近(KAHS HP)



■KAHS([MN. Marhatta, Dean](#))／KAHS 教育病院(KAHS FB)

*1 “Dr Govinda KC begins hunger strike at police office after arrest,” Kathmandu Post, Jun 30, 2018

*2 “Dr KC starts hunger strike in Jumla,” Kathmandu Post, Jul 1, 2018

*3 “Dr KC’s first night of 15th fast–unto–death in darkness,” Republica, July 1, 2018

*4 DB BUDHA, “Dr KC starts 15th hunger strike, is briefly arrested,” Republica, July 1, 2018

*5 DB BUDHA, “KC supporters gather in Jumla,” Republica July 2, 2018

*6 “Dr KC Begins Hunger Strike In Jumla,” NEW SPOTLIGHT, July 1, 2018

*7 “DR KC STARTS HUNGER STRIKE IN JUMLA,” Yuvanepal.Com, July 1, 2018

*8 “Dr KC starts hunger strike in Jumla,” The Province Times, July 1, 2018

谷川昌幸(C)

2019/03/16 at 17:56

カテゴリー: [健康](#), [政治](#), [教育](#)

Tagged with [ゴビンダ・KC](#), [ハンスト](#), [Jumla](#), [Karnali](#), [医学教育](#)

ゴビンダ医師のハンスト闘争(25)

6. 第15回ハンスト

(6)決死のハンスト(v)

④強制摂食:いくつかの事例

A. 西洋近世・近代の奴隷と病人 B. イギリス C. アメリカ

D. ロシア E. 北朝鮮 F. イスラエル G. インド

H. 日本 強制摂食は、医療先進国・日本でも、むろん行われている。どうしても抵抗して食べない場合は、数人がかりで押さえつけたり拘束したりして鼻からチューブを入れ、流動食を直接胃に流し込む。鼻からの出血や激しい嘔吐があり、身体的にも精神的にも苦しいが、生命を救うため止むを得ないとされている。

刑務所や拘置所での事例としては、2007年5月の大阪拘置所での強制摂食があげられる。明確な政治的理由からではなさそうだが、ある収監者が食事を拒否し続けたので、嫌がる本人の手足を職員数名で押さえ、鼻腔経管栄養補給を行った。

この本人の同意なき強制摂食については、鼻からの出血など不当な身体的・精神的苦痛を受けたとして慰謝料請求の訴えが出されたが、最高裁は国側には「安全配慮義務」違反はないとして請求を棄却した。日本でも、拘置所等では同意なき強制摂食が——事例は多くはなさそうだが——現在のところ法的には認められているのである。

拒食が、本人の自覚的選択によるものではなく、疾病としての摂食障害によるものである場合には、日本の刑務所、拘置所等でも、当然の医療行為として強制摂食が実施されている。これは、一般社会における場合と、本質的には変わりはない。

日本において、これから先、深刻な政治問題となりそうなのが、在留資格なしとして入国者収容所(入管センター)等に収容されている外国人に対する同意なき強制摂食である。今はまだ実施されていないようだが、今後、もし実施されることになれば、国内にとどまらず国際的にも大問題とならざるを得ない。

このところ出稼ぎ、移民、難民など、観光以外の目的で来日する外国人は年々増加し、それに伴い在留資格なしとして入管センターに収容される外国人も、2012年末に1028人だったのが2017年末には1382人になるなど、大きく増加している。

これら入管センターに収容されている外国人は、先が見通せないまま収容が長引くにつれ不満を募らせ、処遇改善を求め**最後の手段としてのハンスト**に訴えることが多くなった。

- ・2011年4月 名古屋入管センターで処遇改善を求め20名余ハンスト。
 - ・2015年4月 東京入管センターで仮放免申請却下に抗議し数十名がハンスト。
 - ・2016年2月 大阪入管センターで食事改善等を求め49人ハンスト。6～7月には処遇改善を求め14人ハンスト。
 - ・2017年5月 収容長期化に抗議し東京入管センターで40人、名古屋入管センターで約20人がハンスト。
 - ・2018年4月 東京入管センターで、仮放免不許可後のインド人自殺をきっかけに、約140人ハンスト。
 - ・2018年11月 東京入管センターで仮放免制度改善を求め20～30名ハンスト。
 - ・2018年12月 大阪入管センターで強制退去命令を受けた10人以上がハンスト。
- このように入管法違反で収容されている外国人のハンストは著しく増加しているものの、管見のかぎりでは、いまのところハンスト死も、それを防止するための強制摂食も報道されていない。

しかしながら、移民・難民政策不備をそのまま放置すれば、入管センター等での抗議ハンストの激化は免れえず、「決死のハンスト」によるハンスト死かさもなければ同意なき強制摂食かの、いずれも採りがたい二者からの択一を迫られることになる。

日本では、「決死のハンスト」の問題が、日本人自身ではなく、むしろ来日外国人によって、日本国民に突き付けられるおそれが大きい。が、これは、言うまでもなく、われわれ自身の問題である。



■東日本入管センター，牛久市(Google)

- *16 「名入管で集団ハンスト 難民申請外国人ら 処遇改善を求める」中日新聞, 2011/4/30
- *17 「『私たちは動物ではない』不法滞在外国人の不满爆発 収容生活改善求めハンスト」sankeibiz, 2016.2.28
- *18 「東京入管施設で約40人の被収容者がハンスト、長期収容などに抗議」reuters, 2017年5月11日
- *19 「名古屋入管でもハンスト 収容長期化に20人抗議」sankei.com, 2017.5.16
- *20 「東京入管の被収容者によるハンストが終了、『影響見極めたい』」jp.reuters.com, 2017年5月25日
- *21 レジス・アルノー／倉沢美左「ベトナム人の死と外国人収容所の過酷な実態 収容者が見た壮絶な最期」東洋経済, 2017/06/09
- *22 「入管収容施設で待遇改善求めハンスト、インド人男性死亡を受け」newsweekjapan, 2018/04/21
- *23 片岡伸行「収容者1人がケガ、ハンストへ——牛久の入管施設で抗議行動を強制排除」kinyobi, 2015年4月7日
- *24 「大阪入管でもハンスト 病気収容者の対応に抗議」共同通信, 2018年12月5日
- *25 「入管収容者が集団ハンスト 東日本センター 長期の拘束抗議」東京新聞 18/4/17
- *26 「入管収容者がハンスト、長期拘束に抗議 茨城・牛久、インド人自殺で」日本経済新聞, 2018/4/17
- *27 鬼室黎「入管施設で外国人30人抗議のハンスト 開始から1週間」朝日新聞デジタル, 2018年11月26日
- *28 「大阪入管でもハンスト 病気収容者の対応に抗議」共同, 2018年12月5日
- *29 宮崎岳志「東京入国管理局に収容されている外国人多数がハンガーストライキを行っているとの報道に関する質問主意書」衆議院, 平成二十九年五月十六日提出

*30 松本克美「判例研究: 拘置所に収容された被拘留者に対する国の安全配慮義務の有無」末川民事法研究, 第 1 号, 2017

*31 鈴鹿祥吾(文責), 若林茂雄(監修)「最高裁判所平成 26 年(受)第 755 号損害賠償請求事件平成 28 年 4 月 21 日 第一小法廷判決」岩田合同法律事務所

谷川昌幸(C)

2019/03/03 at 20:56

カテゴリ: [健康](#), [司法](#), [政治](#), [教育](#), [人権](#)

Tagged with [ハリスト](#), [退去強制](#), [force-feeding](#), [入管センター](#), [入管法](#), [強制摂食](#)